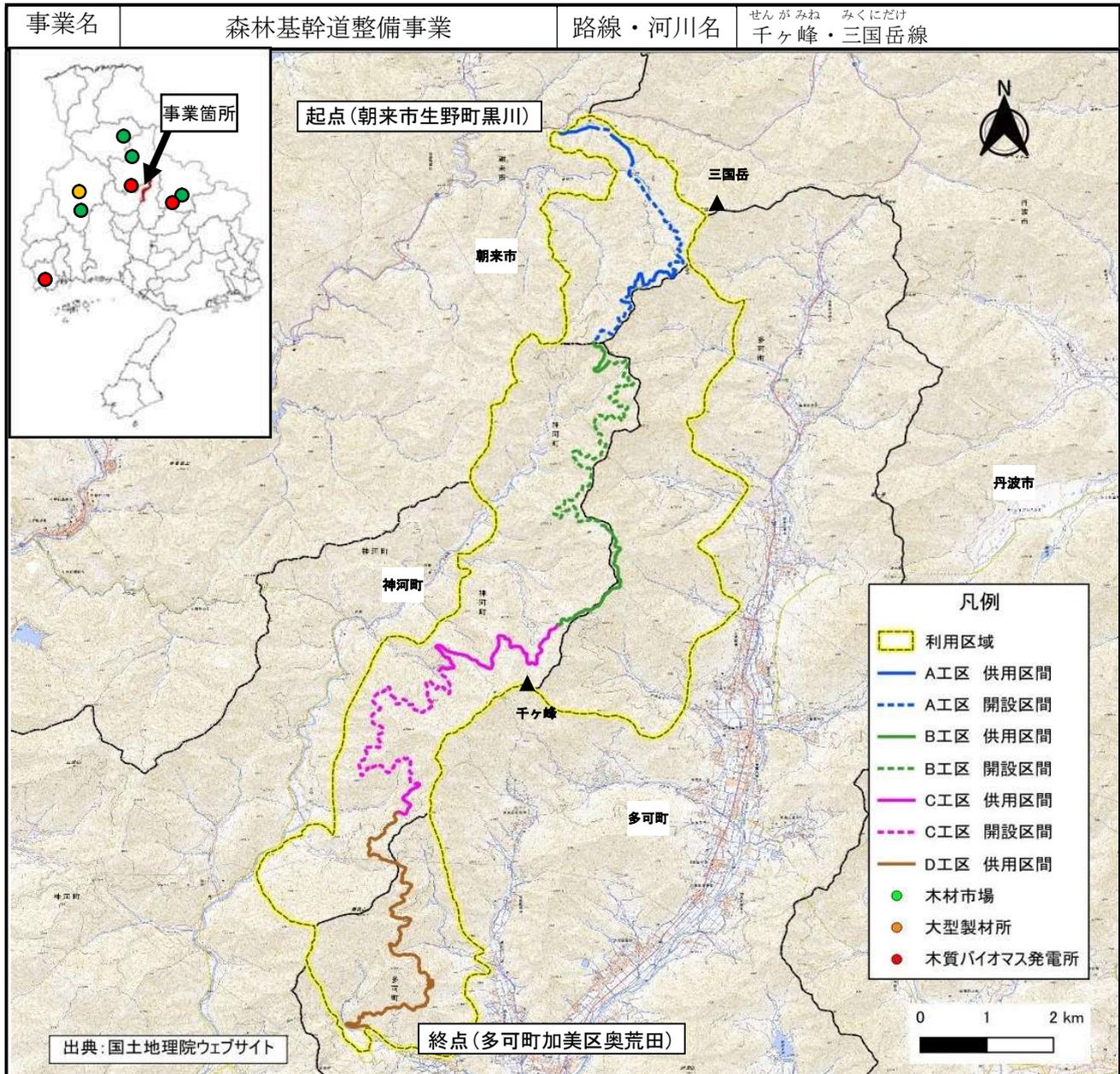


令和7年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第5回〕）

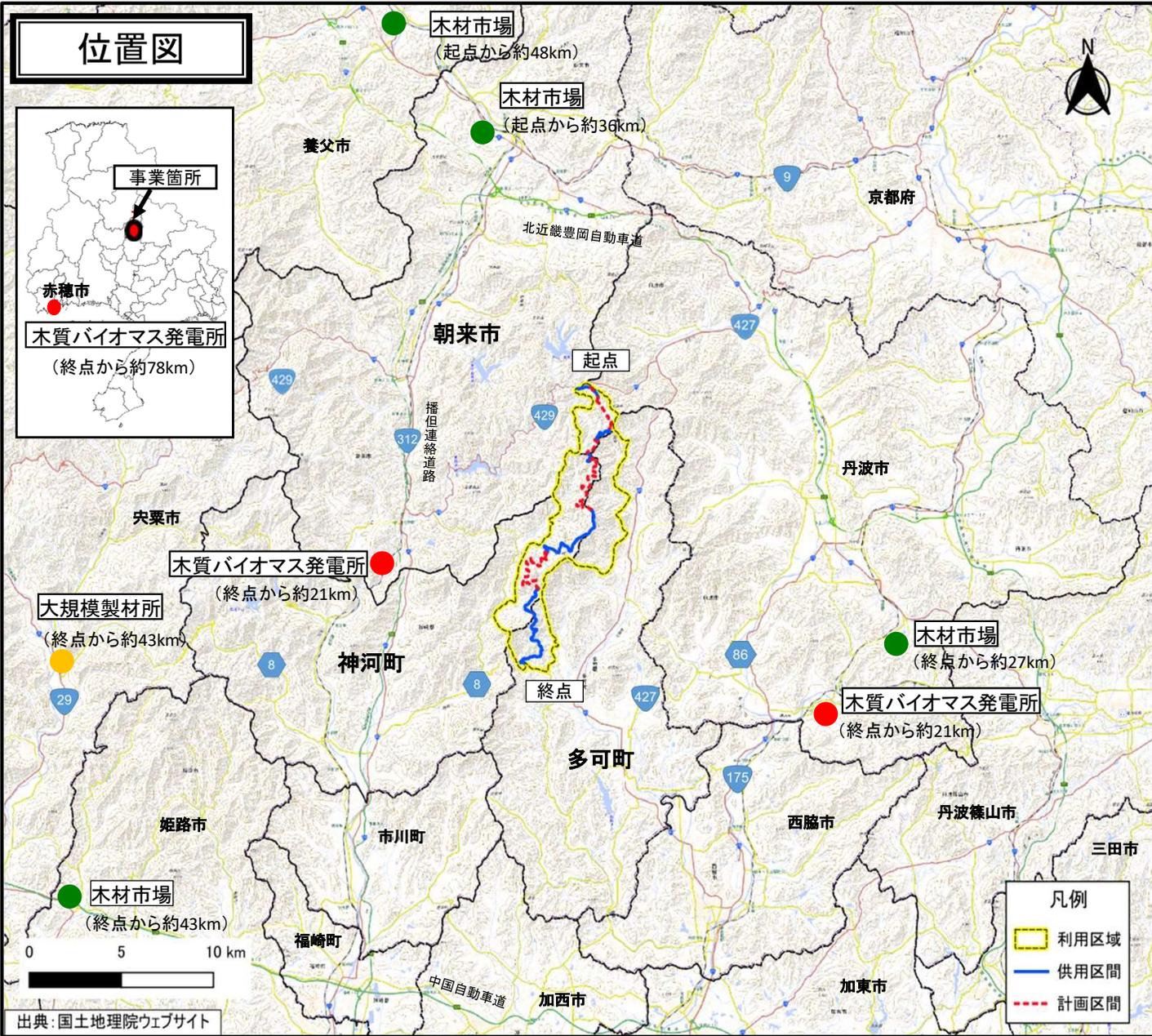
部課室名	農林水産部林務課		記入責任者職氏名 (担当者氏名)	林務課長 河田 尚顯 (主幹 杉山和史)		内線	74456 (74470)
事業種目	林道整備事業	新規評価年度	平成8(1996)年度		現計画	前回評価時点	
事業名	森林基幹道整備事業 せんがみね みくにだけ 千ヶ峰・三国岳線	事業採択年度	平成8(1996)年度		総事業費	117億円	
		着工年度	平成8(1996)年度		内用地補償費	-億円	
		再評価年度	平成17(2015)年度 平成22(2015)年度 平成27(2015)年度 令和2(2020)年度		完成予定年度	令和18 (2036)年度 令和15 (2033)年度	
事業区間	あさごしいかのちようくろがわ たかぐんたかちようか みくおくあらた 朝来市生野町黒川～多可郡多可町加美区奥荒田			進捗率 (用補進捗率)	53% (-%)		48% (-%)
				残事業費	54億円		50億円
事業の目的				事業内容 () 前回評価時点			
但馬地域南部の国道429号(朝来市生野町)から神河町を經由し、播磨地域北部の県道加美栗線(多可町加美区)に至る3市町を南北に結ぶ林内路網の骨格林道。 伐採適期を迎えた人工林から木材を順次搬出し、県産木材の安定供給による林業振興と、伐採収益の確保による山村地域の活性化を図る。また、効率的な路網整備による森林整備を促進し、森林の多面的機能を持続的に発揮させる。				自動車道区分：2種自動車道1級 設計速度：20km/h 延長=35,900m 車道幅員=4.0m 利用区域面積=3,915ha [負担割合：国50%，県40%，市町10%]			
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	① 平成22(2010)年に(協)兵庫木材センターが稼働し、原木集積、加工、流通を一貫して行う県産木材の供給体制が確立(原木取扱量(R1年214千m ³ /年→R5年323千m ³ /年))						
	② 木質バイオマス発電施設がH27(2015)年以降県下5箇所(赤穂市、朝来市、丹波市)で稼働 新たな燃料用木材の需要が急激に増加 (R1年168千m ³ /年→R5年296千m ³ /年)						
【前回評価時点からの総事業費・工期の変更概要】							
① 労務単価・物価上昇による事業費の増及び森林土木工事の積算の改善 (総事業費の増額+17億円)							
② 用地承諾困難地域の承諾がR6年度に得られたため(工期延長+3年)							
進捗状況	全延長35.9kmのうち約18.9km(53%)の供用を開始						
評価視点	評価結果の説明						
審査会意見及び対応方針 (R2年度(2020)再評価)	【審査会意見】継続妥当 間伐の適切な森林管理の 実施			【対応方針】R2(2020)年再評価以降の実績 ① 間伐 R1年末1,393ha→R6年度末1,776ha ・R2(2020)からR6(2024)まで 計画220haに対し実績383ha実施			
(1)必要性	森林の生長を見越して林道を整備しており、①木材需要が増加する中、伐採適期を迎え、木材の安定供給に向けた計画的な伐採・搬出のため、②森林資源の循環利用(伐採、利用、植栽、保育)を促進し、森林の多面的機能を持続的に発揮するために必要である。						
(2)有効性 ・効率性 (執行環境状況)	① 費用便益比B/C=2.32(前回評価時2.0) ② 播磨中部高原森林基幹道推進協議会から早期完成の要望が強く、事業継続への協力が整っている。朝来市の利用区域内集落は迂回路がなく、林道の開通が期待されている。 ③ 地籍調査の実施状況：事業区間全部実施済						
(3)環境適合性	① 地形に合わせたカーブの多い波形線形を採用し、切土量・盛土量を軽減。 ② 小動物等の生息環境に配慮したスロープ付きの排水路を設置。 ③ 県内産間伐材を利用し、土砂流出防止柵等へ有効利用。 ④ 法面は、早期緑化が可能で生態系や在来種への影響の少ない植物種を選定。						
(4)優先性	森林の成熟化が進み、伐期を迎えた利用可能な森林資源を搬出するためには、早期に全線供用開始する必要があるため優先性は高い。						
再評価の結果	継続	左の理由	利用区域内の森林資源は伐期を迎え、木材搬出の基盤となる林道を継続して実施することで県産木材の需要に対応することができる。				

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第5回〕）



	事業進捗状況・予定	整備効果
全体 (H8(1996)～ R18(2036))	【事業費＝117億円】 森林基幹道 幅員=5.0m 延長=35,900m	
前回再評価 まで(実績) (H8(1996)～ R1(2019))	【事業費＝48億円】 森林基幹道 幅員=5.0m 延長=15,771m	H8(1996)～R1(2019)までの実績 主伐 68ha、間伐 1,393ha、 造林 68ha、保育(下刈等) 451ha、 作業道 58,935m
過去5年間 (予定) (R2(2020)～ R6(2024))	【事業費＝12億円】 森林基幹道 幅員=5.0m 延長=3,094m	R2(2020)～R6(2024)までの実績 主伐 12ha、間伐 383ha、 造林 18ha、保育(下刈等) 74ha、 作業道 23,026m
今後5年間 (予定) (R7(2025)～ R11(2029))	【事業費＝26億円】 森林基幹道 幅員=5.0m 延長=7,727m	R7(2025)～R11(2029)までの計画 主伐 21ha、間伐 220ha、 造林 21ha、保育(下刈等) 84ha、 作業道 8,706m
その後7年間(予定) (R12(2030)～ R18(2036))	【事業費＝31億円】 森林基幹道 幅員=5.0m 延長=9,308m	R12(2025)～R18(2036)までの計画 主伐 30ha、間伐 308ha、作業道 12,188m 造林 20ha、保育(下刈等) 118ha、

林道整備事業 森林基幹道 千ヶ峰・三国岳線〔再評価(第5回)〕



目的

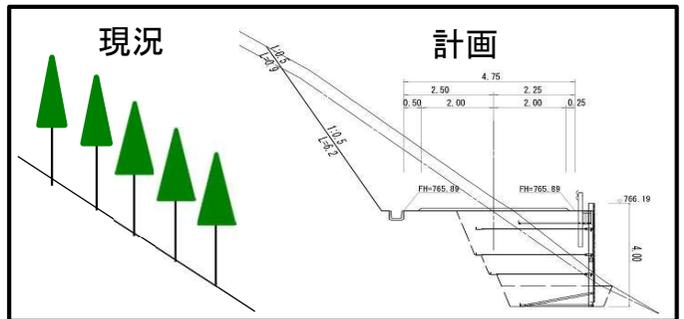
- ① 県産木材の安定供給等の林業振興及び山村地域の活性化
- ② 森林の有する多面的機能の持続的発揮

事業概要

事業区間 : 朝来市生野町黒川
 ~ 多可郡多可町加美区奥荒田

総事業費: 117億円
 内用地補償費: 一億円
 事業期間: 平成8年度~令和18年度
 事業概要: 林道開設
 延長: 35,900m
 費用便益比B/C: 2.32

横断図

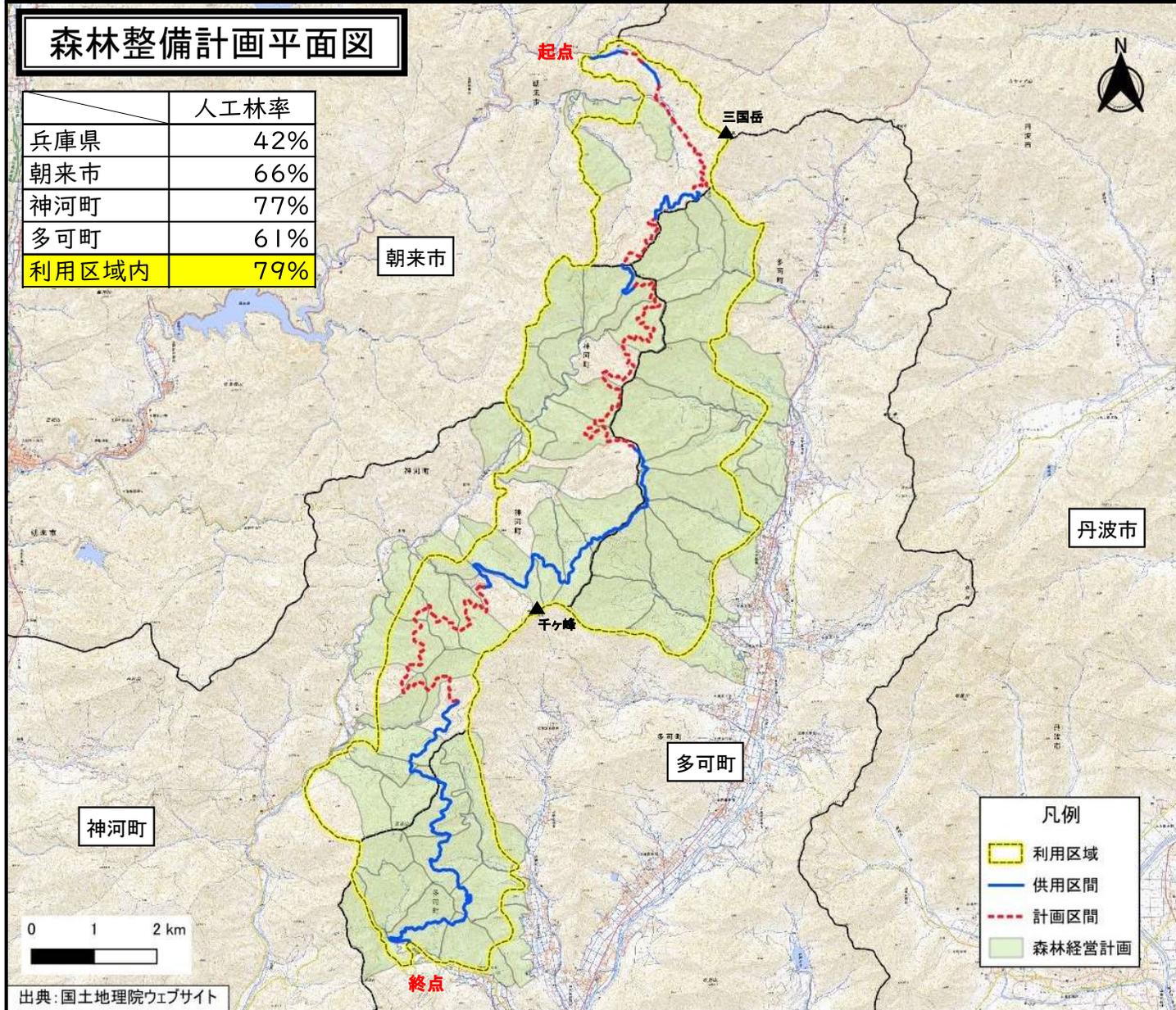


事業の必要性・優先性

①木材需要が増加する中、伐採適期を迎え、木材の安定供給に向けた計画的な伐採・搬出

森林整備計画平面図

	人工林率
兵庫県	42%
朝来市	66%
神河町	77%
多可町	61%
利用区域内	79%



出典：国土地理院ウェブサイト

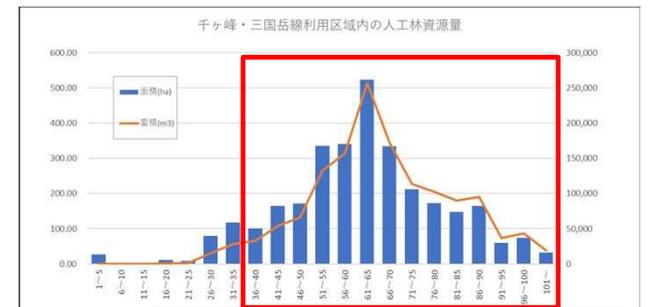
林道－４

現況写真

①間伐



②主伐・再造林



伐採利用可能な36年生以上の人工林が2,834ha(92%)存在する

現況写真

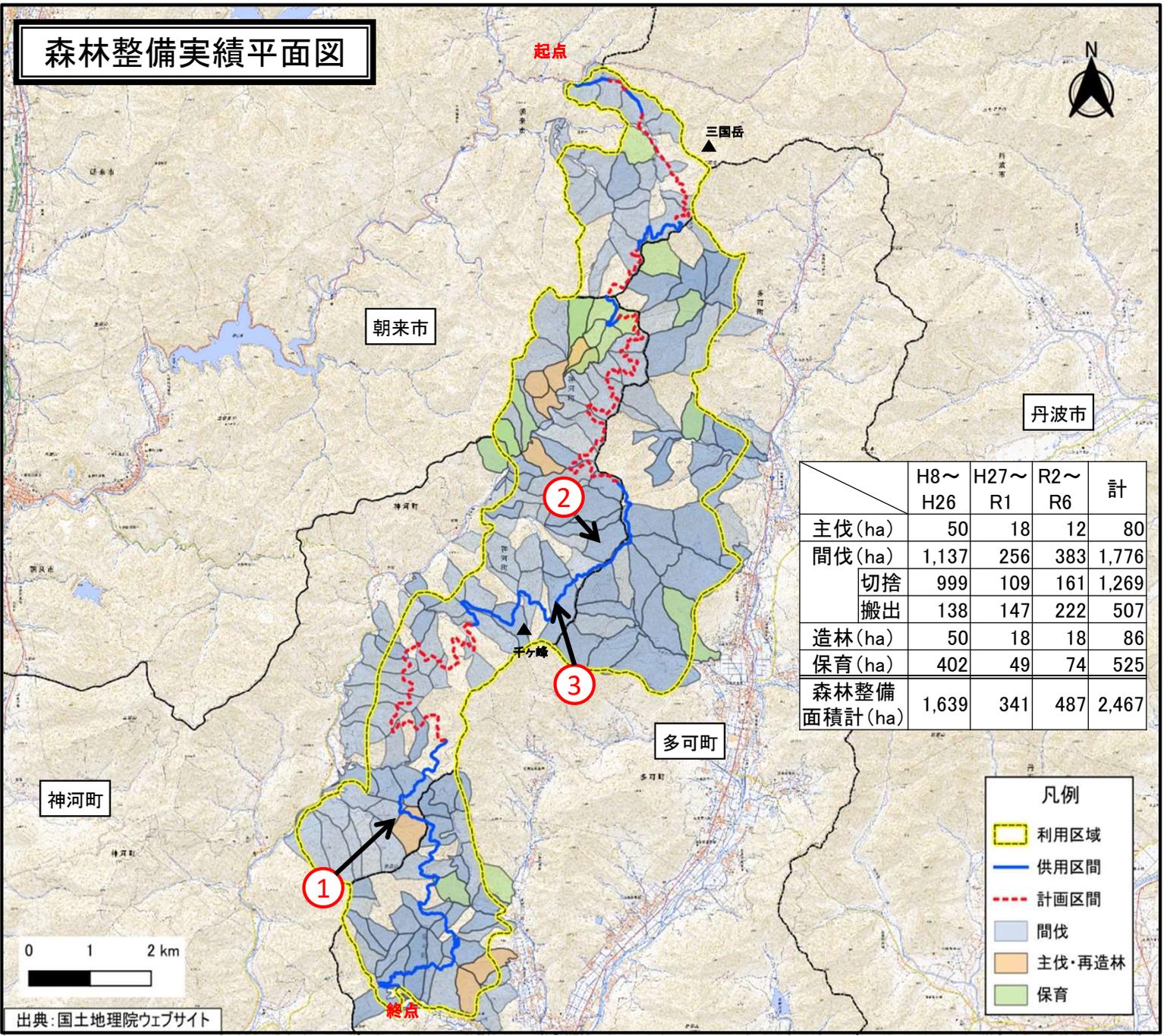
①主伐・再造林(多可町・10-2工区)



②間伐(神河町・10-5工区)

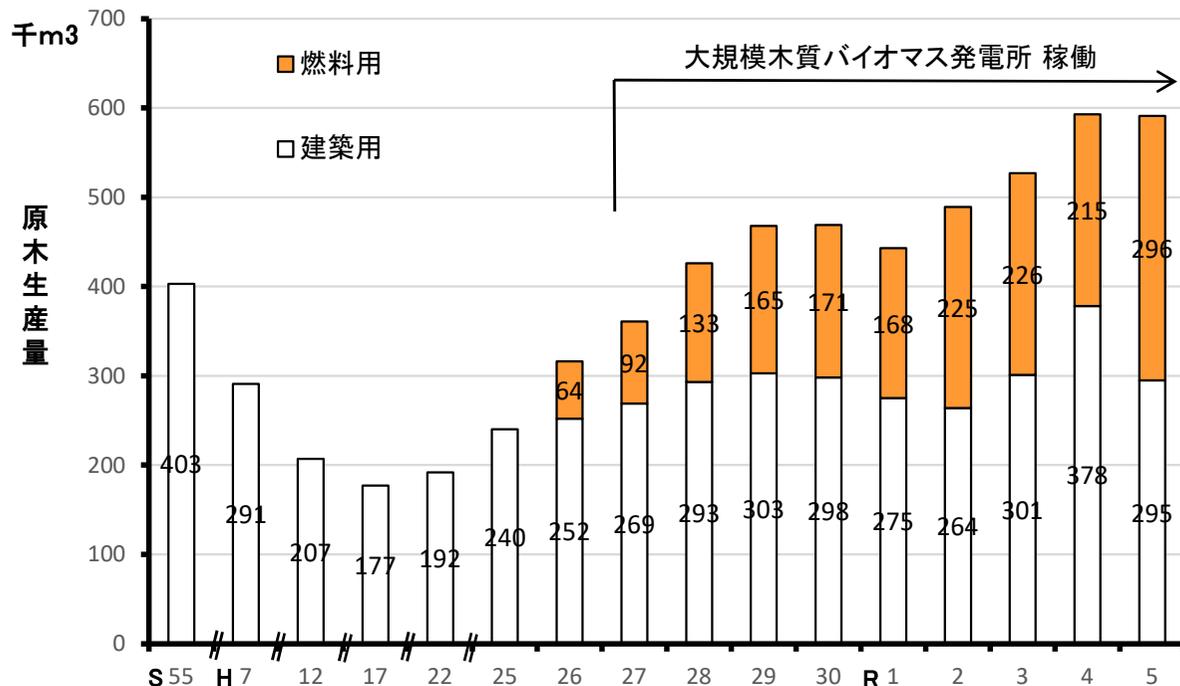


③間伐(神河町10-3工区)



事業の必要性・優先性

県内原木生産量の推移



出典：木材統計（農林水産省）及び兵庫県

県内で稼働中の大規模木質バイオマス発電所の概要

番号	発電事業者	場所	発電規模	運転開始時期	燃料必要量(年)	うち県産未利用木材需要量	備考
①	兵庫パルプ工業(株)	丹波市	18,900kw	平成16年10月	約15万 t	約1.0万m³	
②	(株)日本海水	赤穂市	16,530kw	平成27年4月	約15万 t	約5.7万m³	
③	パルテックエナジー(株) [兵庫パルプ工業(株)]	丹波市	22,100kw	平成29年12月	約25万 t	約5.6万m³	
④	(株)日本海水	赤穂市	30,000kw	令和3年1月	約23万 t	約1.6万m³	
⑤	広畑バイオマス発電(株)	姫路市	74,900kw	令和5年12月	約42万 t	約0.4万m³	
⑥	大東バイオエナジー(株)	朝来市	5,600kw	令和6年4月	約7万 t	約7.0万m³	

現況写真

①兵庫木材センター(宍粟市)



②和田山木材市場(朝来市)



③丹波林産振興センター(丹波市)



事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
① 水源かん養便益	<ul style="list-style-type: none"> ○ 洪水防止便益: 森林が良好な状態に整備されることによって洪水防止に寄与する便益【機能代替: 治水ダム】 ○ 流域貯水便益: 森林が良好な状態に整備されることによって流域貯水に寄与する便益【機能代替: 利水ダム】 ○ 水質浄化便益: 森林が良好な状態に整備されることによって水質浄化に寄与する便益【機能代替: 雨水利用施設】
② 山地保全便益	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土砂流出防止便益: 森林が良好な状態に整備されることによって土砂流出防止に寄与する便益【機能代替: 砂防ダム】 ○ 土砂崩壊防止便益: 森林が良好な状態に整備されることによって土砂崩壊防止に寄与する便益【機能代替: 砂防ダム】
③ 環境保全便益	<ul style="list-style-type: none"> ○ 炭素固定便益: 森林が良好な状態に整備されることによって炭素固定に寄与する便益【森林蓄積量の増加分から推計】
④ 木材生産 便益	<ul style="list-style-type: none"> ○ 木材生産経費縮減便益: 木材の伐採・搬出経費が縮減される便益 ○ 木材利用増進便益: これまで切り捨てられていた間伐材が搬出・利用される便益 ○ 木材生産確保・増進便益: これまで伐採対象とならなかった区域で伐採・搬出が促進される便益
⑤ 森林整備 経費縮減 等便益	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歩行時間経費縮減便益: 造林等作業員の歩行距離、資材運搬の経費が縮減される便益
⑥ 災害等軽 減便益	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害復旧経費縮減便益: 林道を舗装することにより、災害復旧経費が縮減される便益
⑦ 維持管理費 縮減便益	<ul style="list-style-type: none"> ○ 維持管理費縮減便益: 林道を舗装することにより、維持管理費が縮減される便益

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
①安全・安心の確保	緊急避難路と緊急物資の円滑な輸送の確保	○ 中播磨地域と南但馬地域を結ぶ代替路の確保
	減災対策への取組	○ 森林整備の推進による、山地保全機能の確保
②地域の活性化	地域間の交流拡大	○ 朝来市、神河町、多可町間等のアクセス向上により地域間の交流拡大
	観光支援、都市と山村の交流	○ 地域の観光資源との連携による都市住民と山村住民の交流促進
③地域の環境改善	周辺環境の改善	○ 人工林に新たな明るい空間を創出し、植物種の増加など生物の生活の場の確保

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<p>①地元市町及び森林組合等で構成する「播磨中部高原森林基幹道推進協議会」が設立され、毎年、国及び県に早期完成に向けた要望を行っている。</p> <p>※構成員 関係市町(朝来市、加西市、多可町、神河町、市川町、福崎町)の市町長、議会議長、常任委員会委員長、森林組合長(生野、北はりま、中はりま)、市川町外三ヶ市町共有財産組合長</p> <p>②朝来市の利用区域内集落へは、溪流沿いの市道が1路線のみでその他迂回路がないため、豪雨時等による市道通行困難となった際の迂回路として林道の開通が期待されている。</p>
-------	---

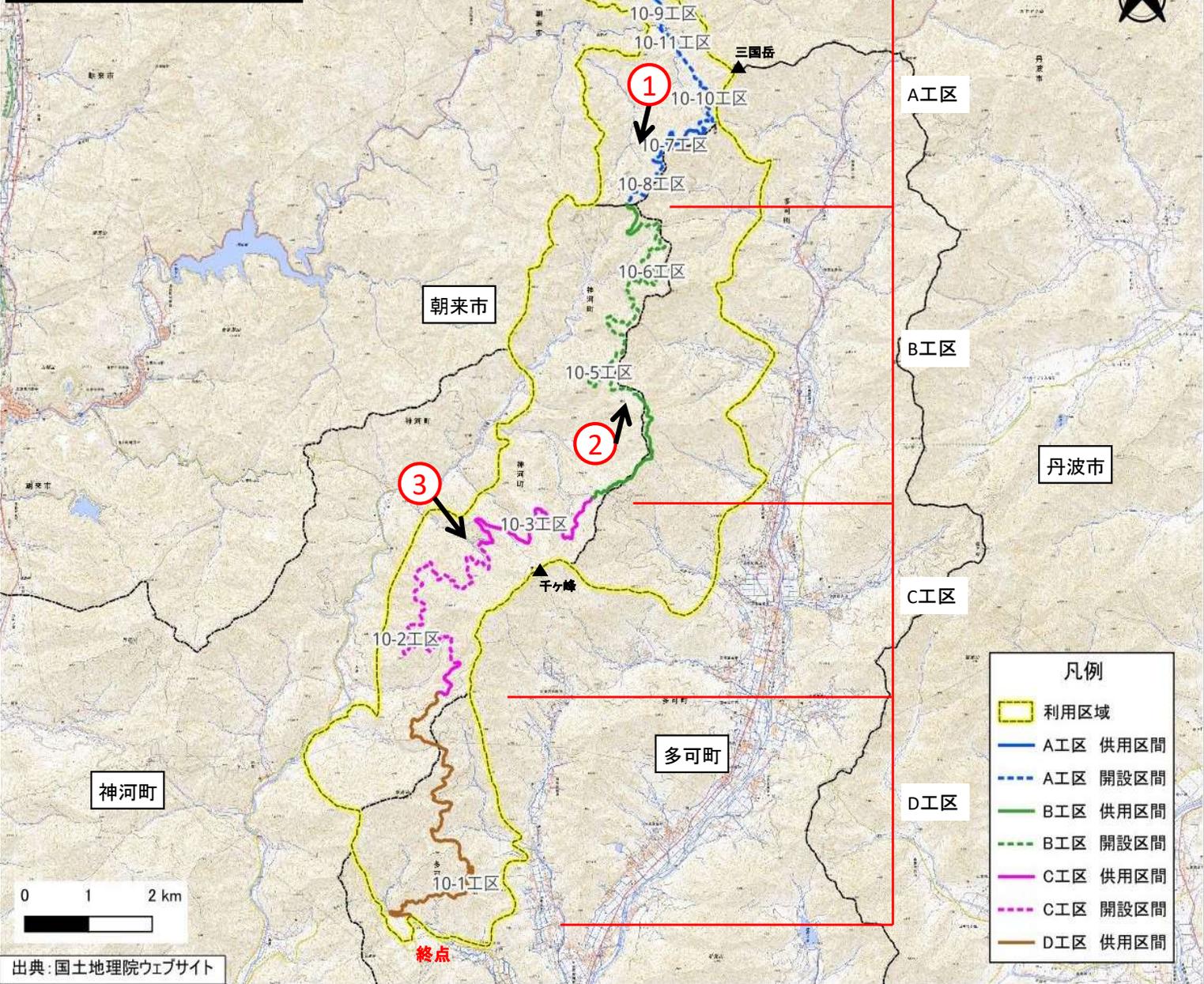
事業の有効性・効率性

費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B/C	
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
林道	森林基幹道整備事業 全体事業費	①水源かん養便益	26,185	期待される森林整備 面積3,079ha	17,168	17,137	31	2.32
		②山地保全便益	4,846					
		③環境保全便益	997					
		④木材生産便益	6,700	伐採・搬出経費(1m ³ あたり) 14,451→9,308円/m ³				
		⑤森林整備 経費縮減等便益	1,080	森林整備作業地への歩行距離 4,073m→420m				
		⑥災害等軽減便益	0					
		⑦維持管理費縮減便益	0					
		計	39,808					

進捗状況

事業進捗平面図



現況写真

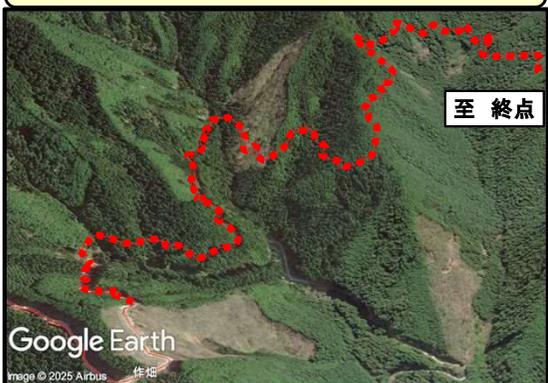
①A区(朝来市)



②B区(神河町)

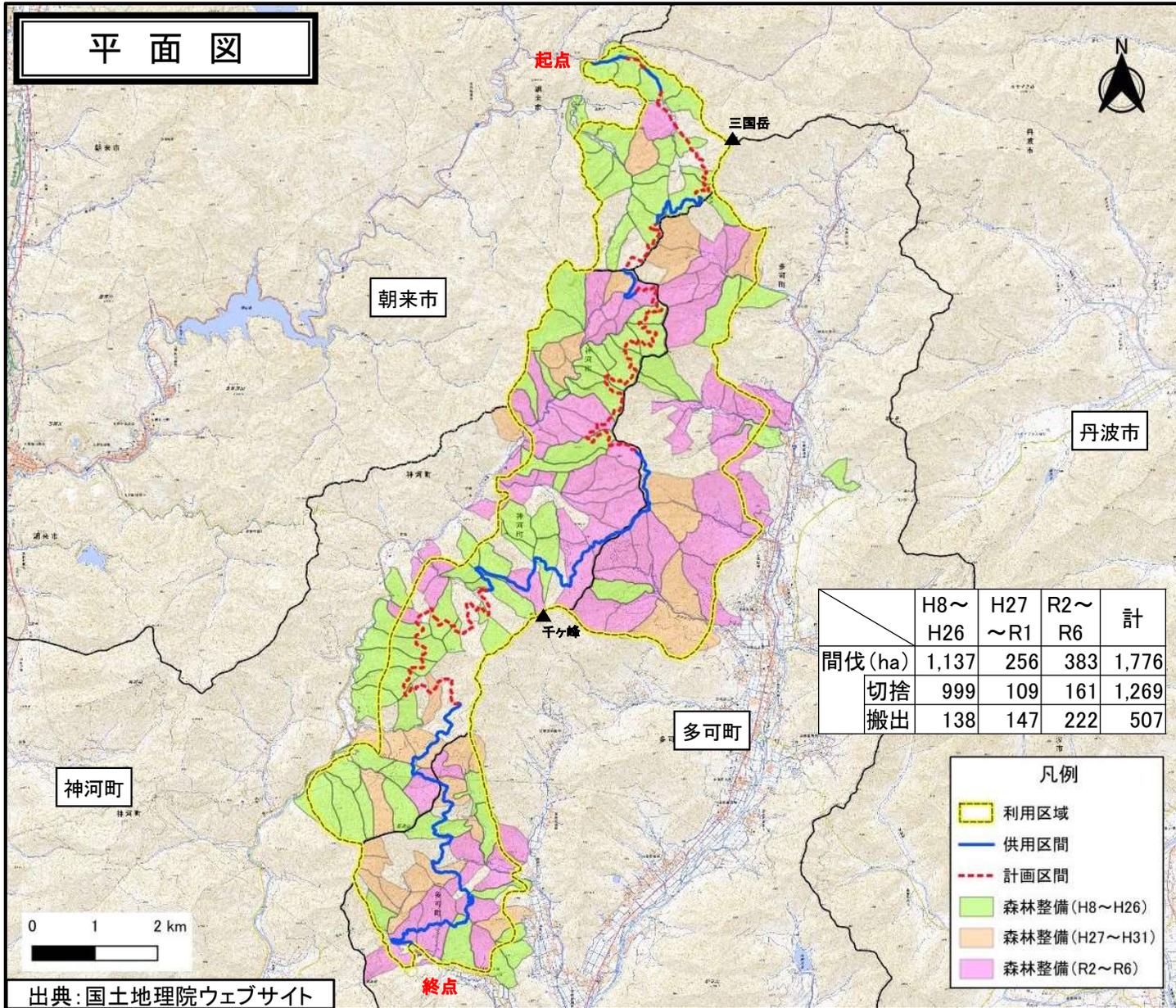


③C区(神河町)



審査会意見及び対応方針

①間伐の適切な実施



林道-13

現況写真

①間伐の実施状況



②間伐による下層植生の回復



③間伐材の搬出状況(多可町)

